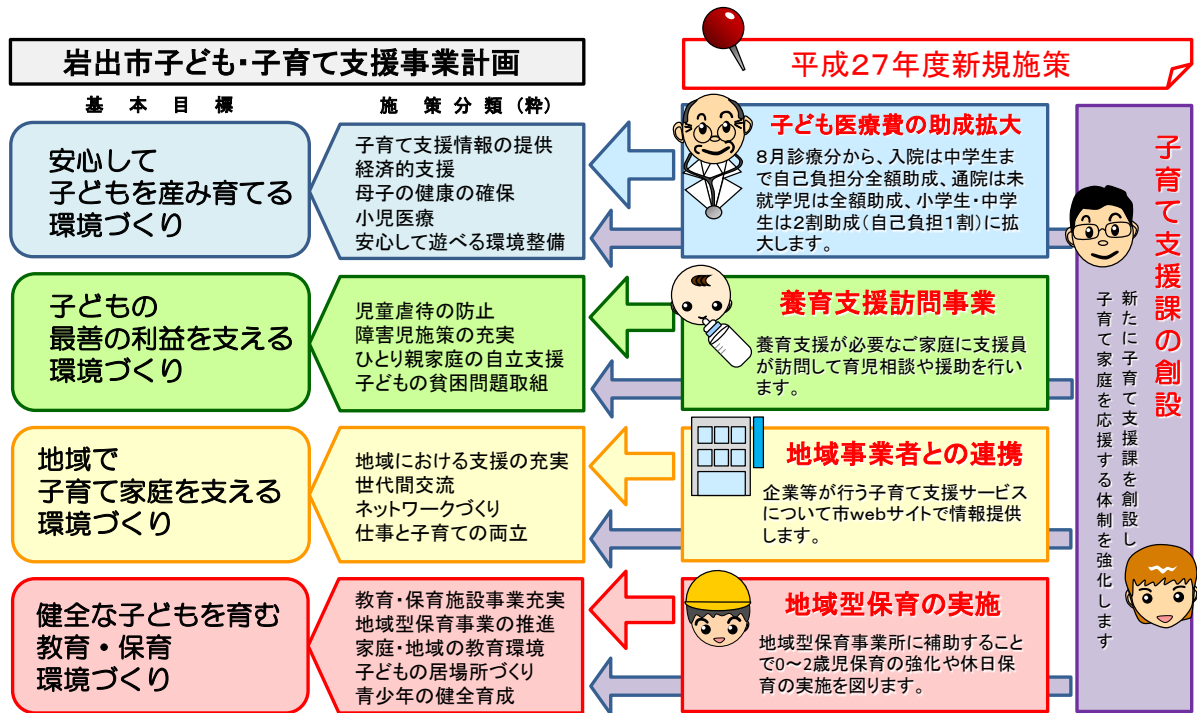


平成27年度の岩出市における子育て支援の取組状況

(1) 岩出市子ども・子育て支援事業計画と新規事業

岩出市では「子ども・子育て支援事業計画」に基づき、子育て支援を推進していきます。そのため、平成27年度から、この計画にそった新規施策を実施します。



- ・子ども医療費の助成拡大 (担当課：保険年金課)  
市単独事業として行っている子ども医療費助成 (自己負担分への助成) を拡大

(改正前)	就学前	小学生	中学生
入院	全額助成	全額助成	対象外
通院	全額助成	対象外	対象外
(改正後)	(平成27年8月診療分より適用)		
	就学前	小学生	中学生
入院	全額助成	全額助成	全額助成
通院	全額助成	2/3助成	2/3助成

※財源は平成26年度地域活性化・地域住民生活等緊急支援交付金 (地方創生先行型) を活用。

- ・養育支援訪問事業  
子育てに対して不安や孤立感等を抱える家庭や、様々な原因で養育支援が必要となっている家庭に対して、育児・家事の援助、指導助言等を訪問により実施することにより、個々の家庭の抱える養育上の諸問題の解決、軽減を図る。乳児全戸訪問事業のフォローとして位置づけられる。  
※養育支援訪問員を新たに委嘱し、国の「子ども子育て支援交付金」事業として実施

- ・地域事業者との連携（「地域子育て応援環境促進事業」の名称で実施）

住民が行政施策だけでなく民間事業者のサービスも含めた子育てに関する様々な情報を一元的に取得できる仕組みを構築し、地域全体で子育て家庭を支える環境づくりを推進する。子育て支援サイトを開設し総合的に情報を提供するとともに、安心して子育てできる環境づくりに取り組む事業者を子育て応援企業として登録してもらい、同サイトを通じて市民に紹介する。

※財源は平成26年度地域活性化・地域住民生活等緊急支援交付金（地方創生先行型）を活用。

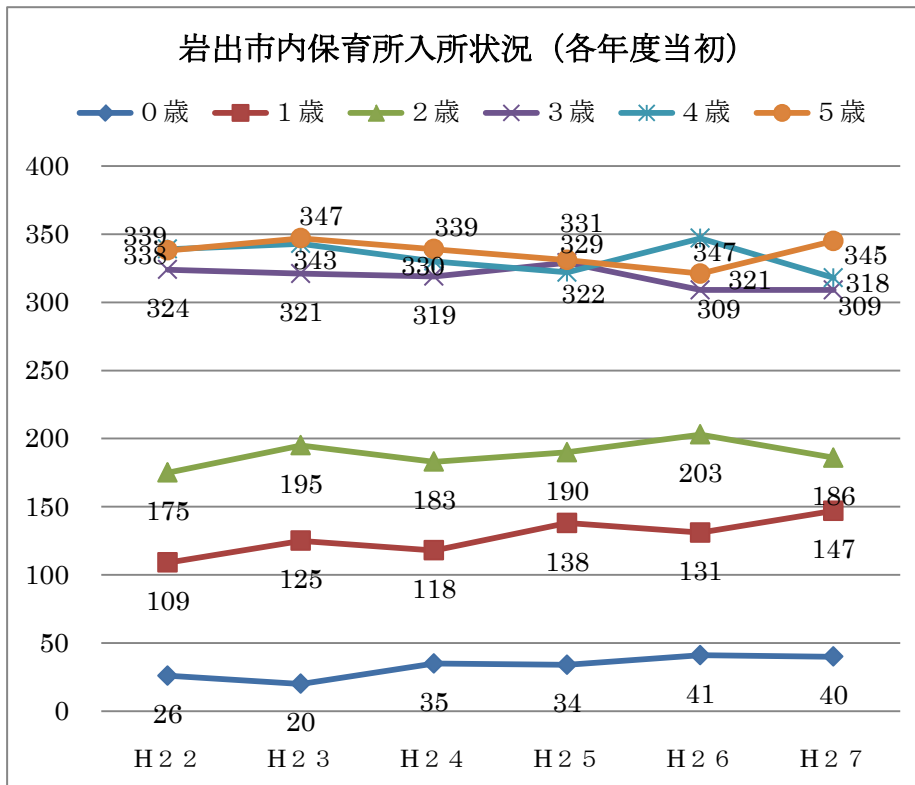
- ・地域型保育の実施

平成27年度からの新制度により従来の認可外保育施設のうち一定の基準を満たした施設を市町村が認可し地域型保育給付の対象とすることになり、つくしの里幼保園（社福 和歌山つくし会）1か所（事業所枠9名、地域枠10名）を認可。なお、同幼保園では一時預かりの休日保育も実施。

※国「子どものための教育・保育給付費国庫負担金」対象事業として実施

## (2) 保育所待機児童対策

- ・平成27年度当初に保育所待機児童14名が発生（すべて1歳児） 年度当初発生は初めて。



- ・子どもの数自体は減少しているが、保育を希望する数は横ばい状態、低年齢児の希望数は増加傾向にある。注）上のグラフに14名の待機児童数（未入所児童）は含まれていない。

全国的にも平成27年度は保育施設整備により受入数が伸びたにもかかわらずそれを上回る希望者があり待機児童数が増えた。児童数全体は減少しているものの、特に低年齢児の希望が伸びていることは岩出市と同様の傾向である。

- ・従来の低年齢児の増加傾向に加え、新制度への期待によりニーズが掘り起こされたことと、社会状況の変化が影響したものではないか（当市のみならず全国的傾向として）。特に1歳児の増加が顕著であり、育児休暇明けの職場復帰が増加したのではないかと推察。

- ・4月に発生した14名の待機は5月には解消。従来の低年齢児の増加傾向に対応するため、5月から地域型保育事業を開始することとしていた事が奏功。しかし、その後も年度途中の申込みが例年を超えるペースで増え続け、各園に定員を超える受け入れ等を要請し対応したがそれも限界となり、平成28年2月1日時点で待機児童40名。

- ・今年度は県内全域で待機児童が発生し、和歌山市と岩出市が顕著。

- ・平成28年度当初において解消すべく、定員増を前提とした大幅な増額予算を編成（平成27年度当初予算 1345名 → 平成28年度当初予算 1453名）。これにより、平成28年度当初には解消見込み（実際の入所受付状況からみてもほぼ確実）。

- ・岩出市においては大都市とは異なり、施設自体の不足ではなく、保育士確保が難しくなってきた事が課題。都市部の施設整備による保育士不足の影響が地方に出てきていると考えられる。施設と予算は確保したが保育士が不足すれば児童の受け入れができない。これが今後の大きな懸念材料。